

基本テーマ	交易の歴史を知る	サブテーマ	歴史街道に行く
-------	----------	-------	---------

## 北上川の舟運復活に向けた取組み（1 / 2）

北上川をはじめとする東北地方の大河川は、中部日本の列島を駆け下りる急流河川と異なり、列島と並行方向に緩やかに流れる特性を持ち、舟運に適していたことから、北前船との接続による水路を利用した輸送ルートとして、特に江戸期に、新田開発と河川改修により、飛躍的に舟運が発達する。

しかしながら、東北地方の舟運は、明治期の鉄道の開通により、物資輸送の主役の座を奪われてしまった。

現在では、ウォータースポーツの場や、観光遊覧などとして親しまれている。



このような北上川の舟運の歴史を現在に取り戻し、新たな活用を図ろうという取組みが始まっている。

### ■NPO 法人「北上川流域連携交流会」による舟運復活に向けた取組み

よみがえれ 水・舟・人のきずな

#### 北上川舟運復活に向けて

#### 「平成の舟帯」試験航行による流域交流・航路調査事業

#### 趣意書

日本近現代史の100年の間、歴史と記憶の後景に遠ざかって行った北上川舟運。

その帆影と舟唄が、新しい世紀の曙光の彼方から、いま、還って来る。

高速交通・高速情報の過剰な流れに、私たちはともすると巻き込まれ翻弄されがちです。そうした現代社会のいわば必然として、悠久の時を超えておのずから流れ行く川に惹かれるのでしょうか。おのずからの流れに身をゆだねる北上川航行の夢は募るばかりでした。舟運復活を唱えてみても、物資輸送の経済性からは論ずるべくもなく、また、観光事業の目論見からは歪んだ航路が懸念されます。

しかし、私たちの北上川は、多くの支流を集め、その支流を後背に広大な流域を形成するように、この10年、民間・行政を問わず、多くの思いと実践の流れを集め、ネットワークを広げてきました。「東日本水回廊構想」「北上川歴史回廊構想」、水辺プラザ、「流域民憲章」や北上川流域連携・交流の市町村や住民のきずな……。そして、これらの流れに励まされて進水したのが「平成の舟帯・北上川連携号」でした。

「平成の舟帯・北上川連携号」の航行による航路調査実現にあたって、21世紀を展望する核を「舟運復活」に求めようとする北上川流域民の熱き思いと国土交通省の川づくり、国づくりの方向性がまさに合致し、計画の一步から協働することが出来ることを誇りに思います。本事業の意義と目的を明らかにし、流域諸団体、住民と北上川を愛するすべての人々に開かれた多彩で、未来に結ぶ企画とすべく提案致します。

資料；北上川流域連携交流会 HP

基本テーマ	交易の歴史を知る	サブテーマ	歴史街道を行く
<b>舟運の歴史 北上川の舟運復活に向けた取組み (2 / 2)</b>			
開催要項			
<b>1.事業名</b>			
北上川舟運復活に向けて「平成の舟帯」試験航行による流域交流・航路確保調査事業			
<b>2.趣旨目的</b>			
(1)素朴に展勝地に復元した天神丸を石巻まで走らせたいという熱き思いの実現 (2)「平成の舟帯・北上川連携号」の試験航行によって、北上川航路の難所や泊地の適地などの現状を調査し、舟運復活に向けた本格的資料を作成する。 (3)民間・行政・企業などの特性を活かし、川と水の施策に対する合意形成の深化を図る。 (4)調査区間の沿川市町村の住民・自治体との交流を企画、舟運復活と流域連携の気運を醸成する。 (5)北上川に関わる広範な団体・個人の参加により調査団を組織し、流域連携ネットワークの多様な協働の方向性(または可能性)を探る。(6)ゼロエミッション・持続可能な社会に向けて事業(雇用創出)の可能性をさぐる。 (7)水思想・川思想の学習と深化を探る。			
<b>3.目標</b>			
(1)航路状況の基本データの調査とまとめ (2)「舟帯」ほか諸船舶の運航技術の習熟(クルー<水夫(かこ)>教育) (3)交流・連携のための事業・企画の実施やメッセージの交換 (4)学校・子ども団体等の参加による青少年への啓発と総合学習との連携の実験 (5)帆船許可 (6)テレビなどの視覚映像により北上川流域の舟運復活情報を発信する			
<b>4.開催日</b>			
平成 15 年 4 月 18 日(金)～5 月 10 日(土)			
<b>5.開催場所</b>			
北上市～石巻市 北上川・旧北上川			
<b>6.使用船</b>			
舟帯・北上川連携号、北聖丸、ゴムボート 6 艇 ジェットボート「ゆはず」(4 月 22 日のみ) ジェットボート「リトルフレンド」(4 月 26・27 日、5 月 3・4・5・10 日)			
<b>7.主催者</b>			
北上川舟運復活「平成の舟帯」北上川連携号を走らせる実行委員会 (実行委員長 平山健一) 事務局:NPO 法人北上川流域連携交流会内 一関市狐禅寺字石ノ瀬 0191-31-6331			
<b>8.後援</b>			
国土交通省岩手河川国道事務所・胆沢ダム工事事務所・北上川ダム統合管理事務所・北上川下流河川事務所・鳴子ダム管理所 岩手県/宮城県 /北上市/水沢市/石巻市/登米町/川崎村/北上川流域市町村連携協議会/NTT グループ/ 報道機関各社/北上川流域活動団体各位			

資料；北上川流域連携交流会 HP

基本テーマ	交易の歴史を知る	サブテーマ	歴史街道を行く
-------	----------	-------	---------

## 江戸・明治の流通拠点「江刺市」の蔵を核にしたまちづくり（1／2）

### ■半径 500m 圏の 134 棟の蔵

この街では半径 500m 圏内に 134 棟の蔵が集まっている。最も古いものは江戸末期、安政六年（1859 年）の蔵。

（中略）

北上川沿いにある江刺市はかつて塩の集散地だった。大船渡、釜石など遠く三陸沿岸から山を越えて塩が江刺に運ばれ、江刺で船に積まれて北上川を下って仙台方面に向かった。江戸・明治期の流通拠点だった江刺の中心部には塩蔵や酒蔵、みそ蔵、米蔵などが軒を連ねたという。

### ■地元有志で設立した「株式会社 黒船」と取組み ＜店舗やショールームに変身＞

蔵を核にした街づくり推進のために地元有志で作った株式会社「黒船」の及川純一郎副社長は蔵の数の多さを強調する。

（中略）

蔵を利用している店をいくつか訪ね歩いた。まず目についたのが酒舗・柏木本店。一八七三年の創業の造り酒屋だったが、明治末の大火で店を焼いてしまった。そこで火事に強い蔵を新たに建てた。九十六年前のことだ。長く倉庫として使っていたその蔵をワインと日本酒のコーナーとして顧客に公開。地酒の試飲に加え、地元の古い絵地図や明治末の火事の記録帳なども目にすることができ、レトロなムードがあふれている。

大正時代初めの小麦・砂糖蔵を店舗に改造、二階にギャラリー「亀の子館」を設けたのは八重吉煎餅店だ。急な階段を上がると小さな空間が広がる。天井に頭がつきそうだが、その狭さが何ともいえない落ち着きを生む。



出典；北上川ガイド HP



資料出典；日本経済新聞（2005・2・16）より

基本テーマ	交易の歴史を知る	サブテーマ	歴史街道に行く
-------	----------	-------	---------

## 江戸・明治の流通拠点「江刺市」の蔵を核にしたまちづくり（2／2）

二代目店主である八重樫理悦さん（57）は「ギャラリーは年内は予約でいっぱい。版画や陶芸など地元作家の発表の場としてここ五年で定着した」と満足げだ。

蔵に隣接して同店名物「亀の子せんべい」を炭火で焼く作業場を設け、客がじかに工程を見学できるようにした。

（中略）

### ■伝統工芸とのコラボレーションが経済活力を生み出す

江刺には、江戸時代から続く伝統工芸品としてケヤキ、キリなどを使って作る岩谷堂箆笥（たんす）がある。独特の赤みを帯びた漆塗り、手打ち手彫りの金具や南部鉄器具で飾り、移動用に車を付けているのが特徴。蔵を利用したショールーム「見楽館」では製品と作業風景を見ることができる。

（中略）

造り酒屋の蔵を改造したスパゲッティ店「サンタ・サン」、しょうゆ工場の蔵を利用した居酒屋「味のさんま」、みそ原料を使ったカフェ「楽庵」など興味深いスポットがほかにもある。桜の季節、勇壮な江刺鹿踊りが見られる夏祭りの時期などに再び訪れたいと思った。

（以下略）



せんべいを炭火で焼く作業が見学できる八重吉煎餅店



蔵が並びガラス工房などに利用されている蔵町モール

資料出典；日本経済新聞（2005・2・16）より

基本テーマ	交易の歴史を知る	サブテーマ	歴史街道を行く
-------	----------	-------	---------

### 歴史的街道

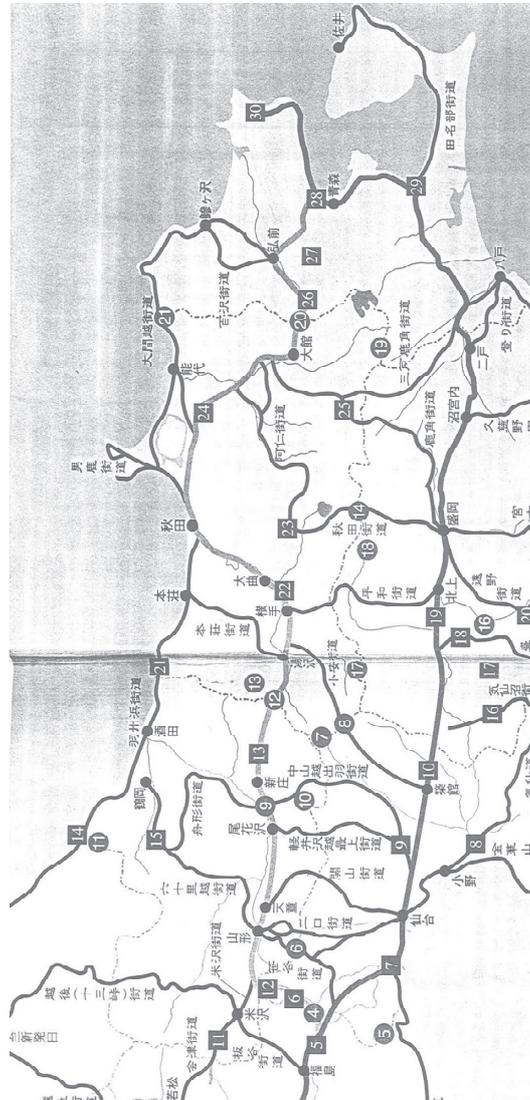
北東北には、河川に沿った主要な街道や、それら街道相互を結ぶ峠越えの街道のネットワークが形成されていた。

これら街道は、熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に指定されたように、生活文化面での地域間の共通性の歴史や、各々の良さ、文化を再発見する新たな視点となる。

歴史的な街道を再発見する取組みや活動は、北東北では他地域に比較して数少ないが、今後の地域間のパートナーシップ構築の手がかりとなる。

#### ■羽州街道地域づくり協議会（秋田県）による羽州街道探訪の取組み

徳川時代初頭に各藩の大名によって整備された羽州街道は、秋田領から津軽領に至るまでの主要な街道でした。秋田領においては、院内杉峠から久保田城下を通り、津軽塚の矢立峠に至るまで、じつに六十三里四町二十三間の道中で、そこにはさまざまな歴史が残されています。久保田城以北、つまり秋田県北部の羽州街道に刻まれた時の断片を拾い集めながら、探訪の旅をつづけています。昔からの街道を訪ね、歴史的名所・旧跡や豊かな自然環境に接することにより道路整備や地域づくりへの理解を深めています。



東北地方の主な街道（「東北の街道」より）

羽州街道コース案内  
（羽州街道地域づくり上議会 HP より）

資料；羽州街道地域づくり HP、「東北の街道」

基本テーマ

交易の歴史を知る

サブテーマ

旅人の見た北東北に行く

### 菅江真澄の見た北東北（1 / 3）

#### 江戸時代後期にみちのくを旅し多くの民俗記録を残した先人

##### ◇菅江真澄とは：

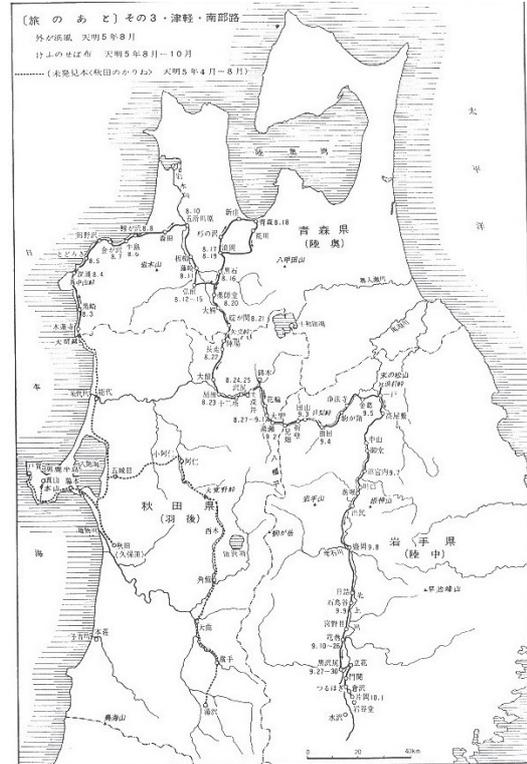
・江戸時代の旅人、菅江真澄は三河の生まれで、30歳から旅に出、長野に始まり新潟・山形・秋田・宮城・岩手・青森・北海道をめぐった。晩年は秋田に滞在し、収集した記録の編纂に従事しているが、終生家を構えることはなかったという。

##### ◇既往の歴史・文化：

○当時あまり知られていなかった東北の生活を、自らの見聞に基づいて、主観表現を避け正確に書き留めたすぐれた記録と評価される。

##### ◇紀行の特徴：

・真澄の業績が民俗学などに貴重かつ豊かな材料を与えていることに加えて、真澄の足跡に沿って歩くことで、江戸時代の北東北の人々の生活を追体験することができる。



菅江真澄の主な足跡

##### ○菅江真澄研究会の活動（菅江真澄研究会 HP より）

江戸後期、わが国の文化史研究に多くの足跡を残した菅江真澄翁は、多年にわたる多くの研究者の努力によって、その業績と人物像が次第に明らかにされています。

本会は菅江真澄研究者として名高い故内田武志氏が昭和21年5月に設立した「菅江真澄研究会」を氏亡き後に継承し、真澄翁の著した日記や地誌などの遊覧記はもとより、秋田県内や全国各地に残っている遺墨や関連史跡等の保存を図るとともに、その業績理解と普及を目的として昭和56年（1981）9月20日に設立されました。

毎年、秋田市文化財「菅江真澄の墓」において墓前祭を執り行っているのをはじめ、年3回の会誌『菅江真澄研究』の発行、菅江真澄研究集会の開催、真澄足跡探訪、講演会などの活動を行っています。

##### 《主な活動》

- ・昭和63年（1988）7月 菅江真澄没後160年祭シンポジウム開催
- ・平成4年（1992）7月 菅江真澄研究会発足10周年記念事業実施
- ・平成10年（1998）7月 菅江真澄没後170年祭記念事業実施
- ・平成13年（2001）6月23日（土）菅江真澄研究会発足20周年記念事業実施
- ・平成11年（1999）7月 第12回菅江真澄研究集会開催（於：青森県深浦町）
- ・平成12年（2000）7月 第13回菅江真澄研究集会開催（於：秋田県仙北町）
- ・平成13年（2001）6月23日（日）第14回菅江真澄研究集会開催（於：秋田市）
- ・平成14年（2002）6月 第15回菅江真澄研究集会開催（於：宮城県気仙沼市 予定）

資料；菅江真澄研究会 HP